

岡山県感染症週報 2017 年 第 23 週 (6 月 5 日 ~ 6 月 11 日)

◆2017 年 第 23 週 (6/5 ~ 6/11) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 22 週	2 類感染症	結核	1 名 (80 代 男)
	5 類感染症	後天性免疫不全症候群	1 名 (30 代 男)
		梅毒	1 名 (20 代 女)
第 23 週	2 類感染症	結核	2 名 (20 代 女 1 名、90 代 女 1 名)
	3 類感染症	腸チフス	1 名 (20 代 男)
	5 類感染症	ウイルス性肝炎	1 名 (40 代 男)
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 名 (90 代 女)
		侵襲性肺炎球菌感染症	1 名 (幼児 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- 咽頭結膜熱は、県全体で 37 名 (定点あたり 0.63 → 0.69 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 流行性角結膜炎は、県全体で 16 名 (定点あたり 1.50 → 1.33 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 386 名 (定点あたり 6.48 → 7.15 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

【第 24 週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157：中学生 男 1 名、70 代 女 1 名) の発生がありました。
(6 月 13 日~15 日)
- 笠岡市内の高等学校 1 校で、インフルエンザによるとみられる学級閉鎖がありました。(6 月 14 日)

1. **梅毒**は、2017 年第 23 週まで (~6/11) に 43 名が報告されました。現在の届出制度が開始された 1999 年以降、最も多かった 2016 年の年間報告数 (40 名) をすでに上まわっています。近年、全国的に急増しており、大きな問題となっています。県内の発生状況など、詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
2. **咽頭結膜熱**は、県全体で 37 名 (定点あたり 0.63 → 0.69 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去 10 年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、美作地域 (1.83 人)、備前地域 (1.10 人)、真庭地域 (1.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、倉敷市を除く全ての地域で患者が報告されています。この感染症は、アデノウイルスに感染することによる小児の急性感染症です。症状は、発熱、のどの痛み、結膜の充血、眼痛、眼脂 (目やに) などです。患者との接触を避けること、流行時に手洗いやうがいを実施することなどが予防法となります。今後の県内の発生状況に注意するとともに、感染予防と拡大防止に努めてください。
3. **流行性角結膜炎**は、県全体で 16 名 (定点あたり 1.50 → 1.33 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。患者数は減少したものの、過去 10 年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市・備中地域 (2.00 人)、岡山市 (1.20 人) で患者が報告されています。この感染症は、アデノウイルスによる眼の感染症で、8~14 日の潜伏期間の後、まぶたの浮腫、結膜の充血、眼脂 (目やに)、流涙、眼痛などの症状を呈します。有効な薬剤はなく、対症療法による治療が行なわれます。このウイルスは、感染力が強く、人と接触する機会の多い家庭や職場、病院などで流行します。感染した際には、眼を触らないよう気を付け、触ったら石鹸と流水でよく手を洗う、タオルや洗面器などの共用は避ける、家庭内での入浴は最後にするなど、拡大防止に努めてください。
4. **感染性胃腸炎**は、県全体で 386 名 (定点あたり 6.48 → 7.15 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。地域別では、備北地域 (11.50 人)、岡山市 (10.79 人)、倉敷市 (7.27 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2016/2017 年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

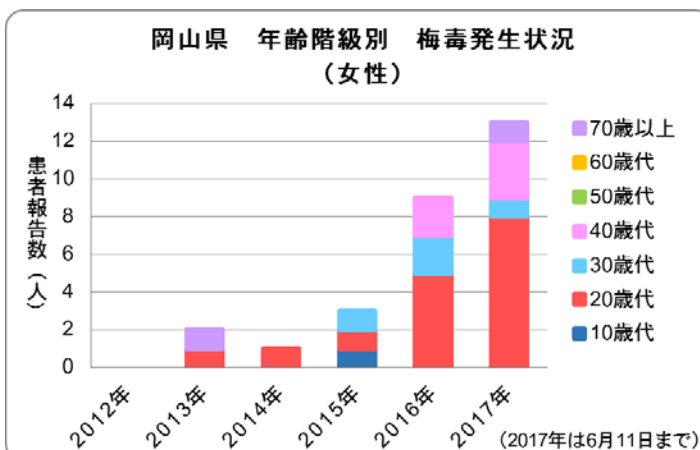
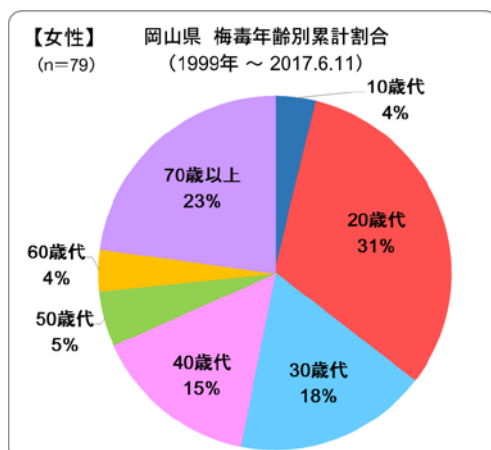
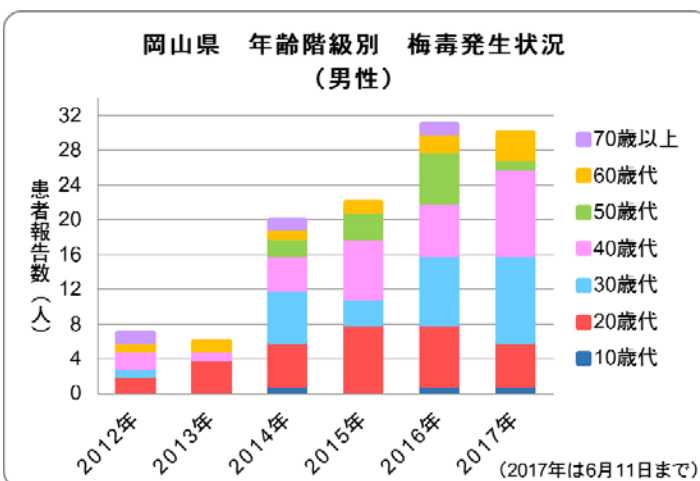
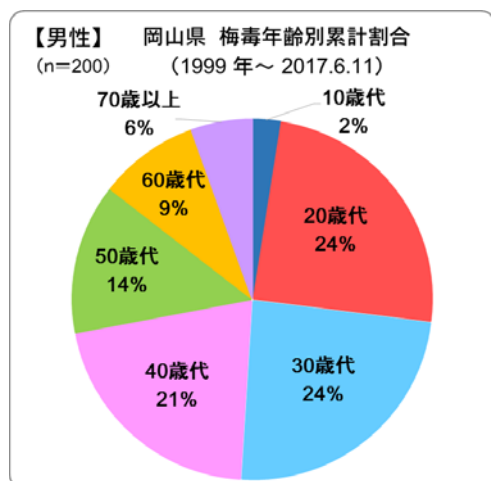
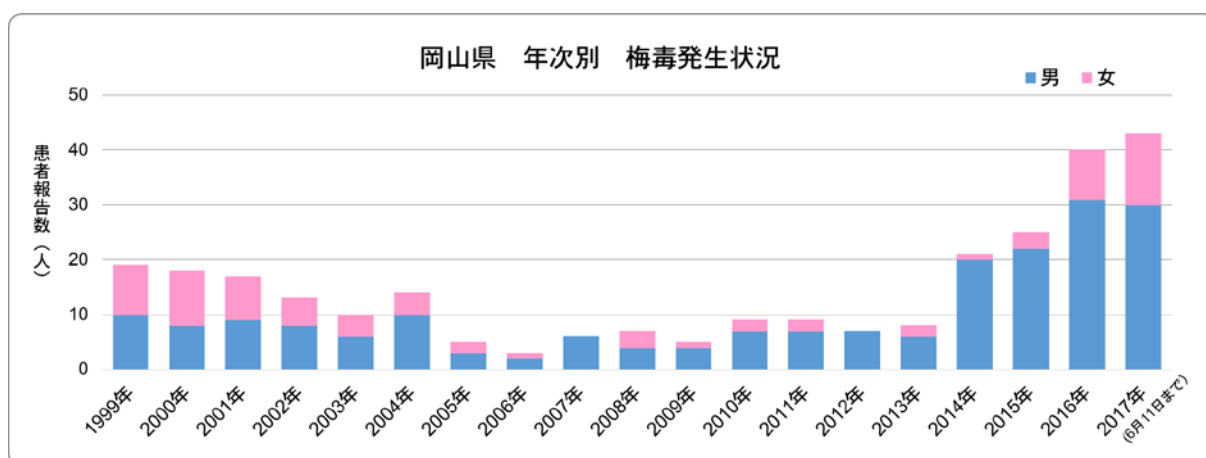
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

梅毒

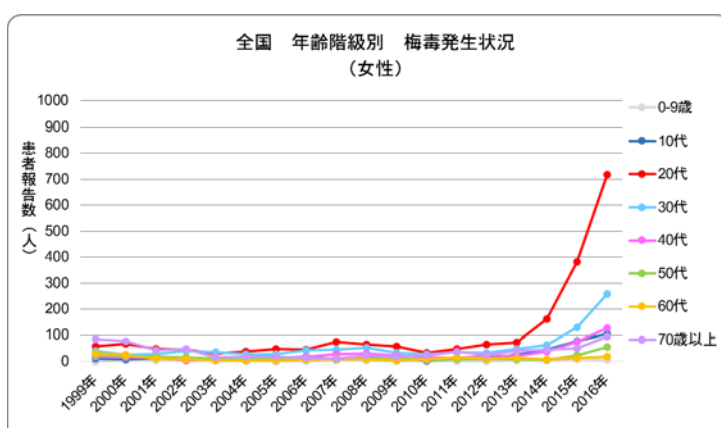
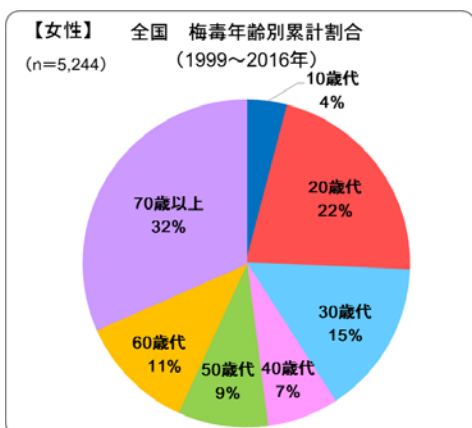
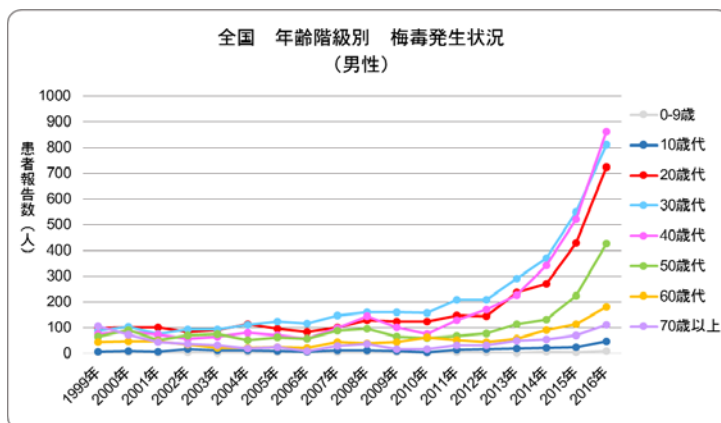
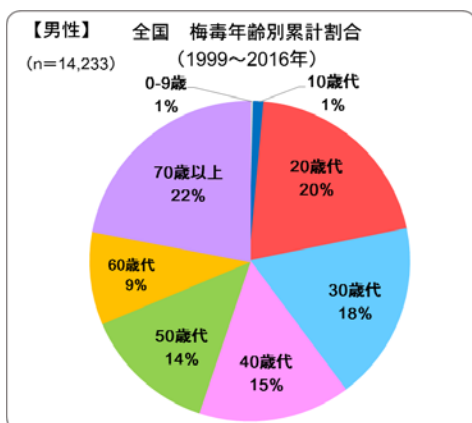
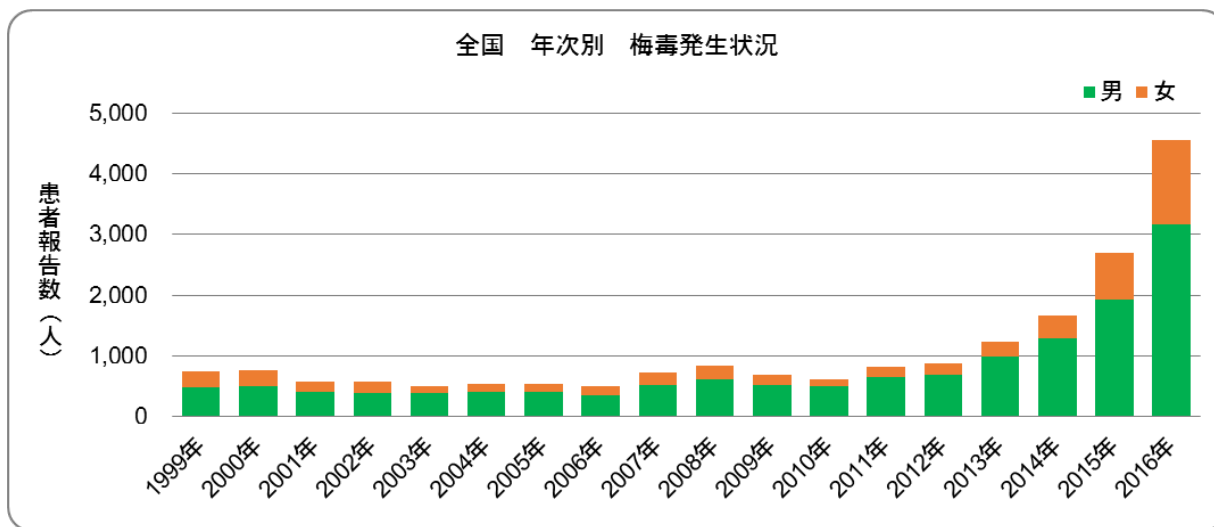
【岡山県の発生状況】

2017年第23週まで（～6/11）の岡山県の報告数は43名で、前年同時期（15名）の約3倍となり、現在の届出制度が開始された1999年以降、最も多かった2016年の年間報告数（40名）を上まわりました。1999年からは患者報告数が減少傾向にあり、2006年～2013年には年間3～9名と1桁台で推移していましたが、2014年以降、急激に増加しています。男女別では、患者報告数の約7割が男性で、女性は男性に比べて少ないものの、2015年から増加に転じています。特に2017年第23週まで（～6/11）の女性報告数がすでに13名であり、1999年以降、最も多くなっています。年齢別累計割合では、男性は20歳代・30歳代 24%、40歳代 21%、50歳代 14%の順で高くなっています。女性は20歳代が31%と最も高く、次いで70歳以上 23%、30歳代 18%となっており、特に2016年から、20歳代の報告数が大きく増加しています。



【全国の発生状況】

2017 年第 22 週まで（～6/4）の全国の報告数は、2,096 名で、男性 1,428 名、女性 668 名でした。2016 年の年間報告数は 4,559 名となり、1999 年以降、最も多くなりました。2011 年以降、患者報告数は増加傾向となっており、特に 2015 年から大きく増加し、2016 年には前年（2,690 名）の約 1.7 倍となっています。年齢別累計割合では、男女ともに 70 歳以上が最も高く、次いで 20 歳代、30 歳代の順となっています。特に 2013 年頃から男性は 20～40 歳代、女性は 20 歳代の報告数が急激に増加しています。20 歳代を中心とした女性報告数が増加したことに伴って、先天梅毒の報告数も 2013 年 4 名、2014 年 10 名、2015 年 13 名、2016 年 15 名と増加傾向にあります。



【梅毒とは】

梅毒は、主に感染している人との性器、口、肛門などの粘膜を介した性行為によって起こる感染症です。原因となる病原体は、梅毒トレポネーマというスピロヘータ（細菌の一種）で、病名は症状にみられる赤い丘疹が楊梅（ヤマモモ）に似ていることに由来します。症状が出たり消えたりするⅠ期、Ⅱ期（症状参照）は、排菌していても自覚症状がないため、感染に気づきにくいと言われます。検査や治療が遅れると、病気が進行し、パートナーへうつす可能性があります。また、AIDS（後天性免疫不全症候群）など他の性感染症にも感染しやすくなります。

感染の有無は血液検査（抗体検査）で分かります（感染初期においては、感染部位から直接病原体の検出による診断が可能です）。抗体ができるまでに時間がかかるため、感染の可能性があった日から十分な期間（約 3 週間）において、検査をする必要があります。早期に治療すれば完治しますが、一度感染して抗体が体内にあっても終生免疫は得られないため、感染が繰り返されることがあり、再感染の予防が必要です。

妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染することがあり、先天梅毒（症状参照）の原因になります。岡山県では妊婦検診の際、無料で梅毒の血液検査を実施して、母子の健康状態の確認を行っています。

【症状】

感染後、約 3～6 週間程度の潜伏期間を経て、経時的に様々な臨床症状が出現します。その間、症状が軽快する時期があるため、治療の遅れにつながる場合があります。感染症法における感染後の時間経過による特徴は次のとおりです。

第Ⅰ期（感染部位の病変）：感染後約 3 週間

感染して約 3 週間後、感染がおきた部位（主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等）にしこりができることがあります（初期硬結）。また股の付け根の部分（鼠径部）のリンパ節が腫れることもあります。痛みがないことが多く、治療をしなくても症状は自然に軽快します。しかし、体内から病原体がいなくなったわけではなく、他の人にうつす可能性もあります。感染した可能性がある場合には、この時期に梅毒の検査を受けることが重要です。

第Ⅱ期（病原体が血液によって全身に移行）：感染後数か月

治療をしないで 3 か月以上を経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発しんが出る場合があります。小さなバラの花に似ていることから「バラ疹（ばらしん）」とよばれています。発しんは治療をしなくても数週間以内に消えることが多く、また、再発を繰り返すこともあります。しかし、抗菌薬で治療しない限り、梅毒トレポネーマは体内に残っており、梅毒が治ったというわけではありません。

晩期顕症梅毒：感染後数年

感染後、数年を経過すると、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍（ゴム腫）が発生することがあります。また、心臓、血管、脳など複数の臓器に病変が生じ（神経梅毒）、場合によっては死に至ることもあります。現在では、比較的早期から治療を開始することが多く、抗菌薬が有効であることなどから、晩期顕症梅毒に進行することはほとんどありません。

先天梅毒

梅毒に感染している母体から胎盤を通じて胎児に伝播される多臓器感染症です。症状の出現時期によって早期（生後 2 年以内）と晩期（生後 2 年以降～20 年）に分類され、感染乳児の 2/3 は、出生時は無症状で身体所見は正常とされています。早期先天梅毒では、生後まもなく皮膚病変に加え、鼻閉、肝脾腫などの症状が認められます。晩期先天梅毒では、乳幼児期は症状を示さずに経過し、学童期以降に Hutchinson 3 徴候（実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson 歯）などの症状がみられます。

【治療・予防】

ペニシリン系の抗菌薬が有効であり、海外ではペニシリン系抗菌薬による治療は筋肉注射が主ですが、日本では内服のみに限られています。内服期間は通常 3～4 週間ですが、医師が治療を終了とするまでは、処方された薬を確実に飲むことが大切です。予防は、感染者、特に感染力が強い第Ⅰ期、第Ⅱ期の感染者との性行為を避けることが基本です。コンドームの適切な使用により感染の可能性は低くなりますが、完全に予防できるとは過信せず、皮膚や粘膜に異常があれば、早めに医療機関を受診しましょう。また、梅毒の感染がわかった場合は、周囲で感染の可能性のある方（パートナー）も検査を行い、必要に応じて治療をすることが重要です。

梅毒の検査は、県内の保健所・支所（無料、匿名、要予約）又は医療機関（有料、要予約）で受けることができます。詳しくは、保健所・支所又は医療機関におたずねください。

[梅毒に関するQ & A（厚生労働省）](#)

[梅毒とは（国立感染症研究所）](#)

[平成 29 年度 保健所における HIV 抗体検査・性感染症検査・肝炎検査日時](#)

蚊が媒介する感染症に注意しましょう！

蚊が媒介する感染症は、ウイルスなどの病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症です。世界的に多く発生しており、特に熱帯・亜熱帯地域で広く流行しています。主な感染症には、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、日本脳炎、マラリア、ウエストナイル熱などがあります。

近年では、中南米、アフリカ、東南アジアなどでジカウイルス感染症が流行しており、特に妊婦及び妊娠の可能性のある方はご注意ください。また、性行為により、男性から女性パートナーへ感染した事例が報告されています。流行地域から帰国した男女は、症状の有無にかかわらず、少なくとも6ヶ月、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を抑えることを推奨します。

日本では、海外渡航などの増加により、海外で感染し、帰国後発症する輸入症例が増加しており、2016年には、海外からの帰国者が、デング出血熱を発症し、死亡する事例が発生しました。また、2014年には、デング熱の国内感染例が報告されており、ヒトスジシマカ等の媒介する蚊が冬を越せないため、ウイルスの国内への定着はないと考えられますが、今後も注意が必要です。

【蚊が媒介する感染症の予防策】

日本脳炎はワクチンによる予防接種、マラリアは医師の処方による予防内服が有効ですが、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱には、ワクチンも予防薬もありません。感染を防ぐためには、媒介する蚊に刺されないこと、蚊の発生を抑えることが重要です。

蚊に刺されない

- 長袖、長ズボンを着用するなど、屋外の作業において、肌の露出をなるべく避ける。
- 素足でのサンダル履きを避ける。
- 白など薄い色のシャツやズボンを選ぶ。（蚊は色の濃いものに近づく傾向がある）
- 蚊取り線香などを使って蚊を近づけない。
- 露出する部分には虫除けスプレーなどを使い、蚊を寄せ付けないようにする。

蚊を発生させない

1週間に1度は、家の周囲の水たまりの除去・清掃をしましょう！
下草を刈るなど、成虫が潜む場所をなくしましょう！

（厚生労働省）



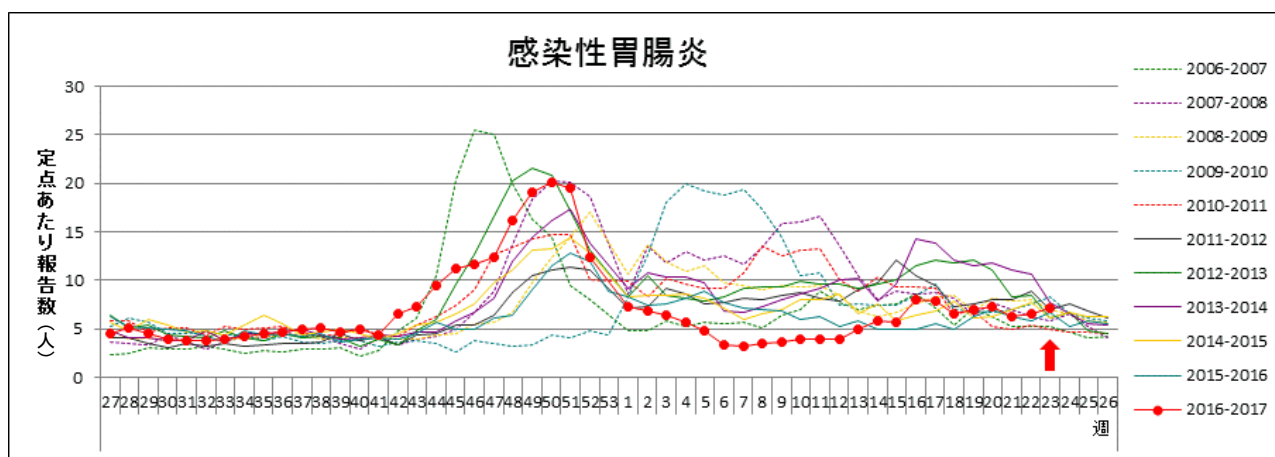
蚊媒介感染症（厚生労働省）

「蚊防除対策ガイドライン」を作成しました（岡山県 保健福祉部 健康推進課）

感染性胃腸炎週報 2017年 第23週 (6月5日～6月11日)

岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で386名(定点あたり7.15人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

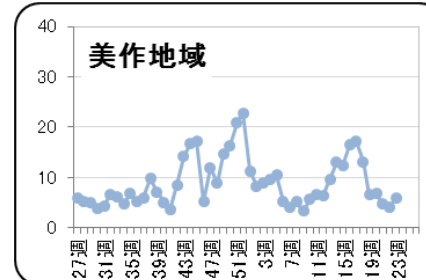
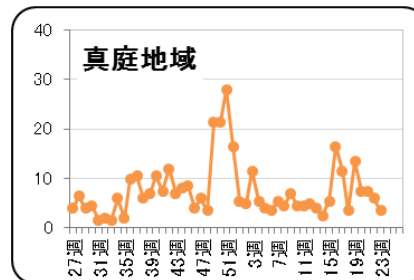
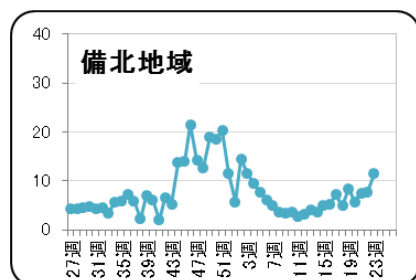
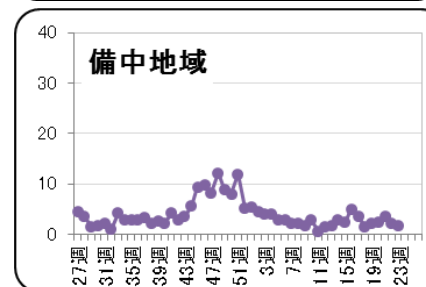
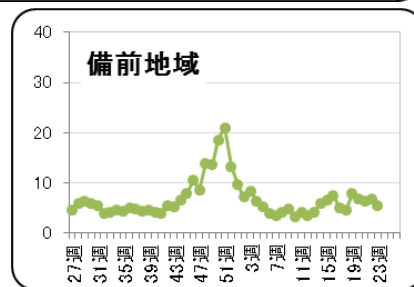
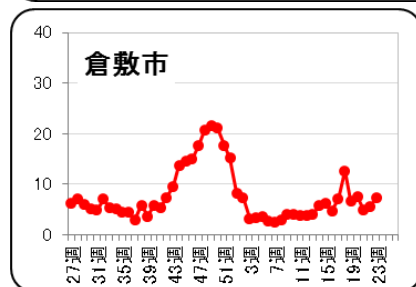
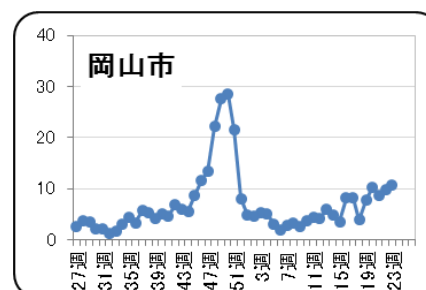
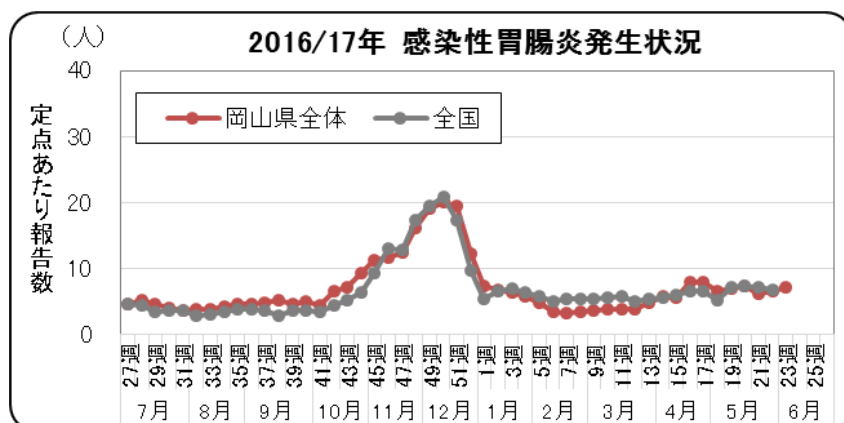


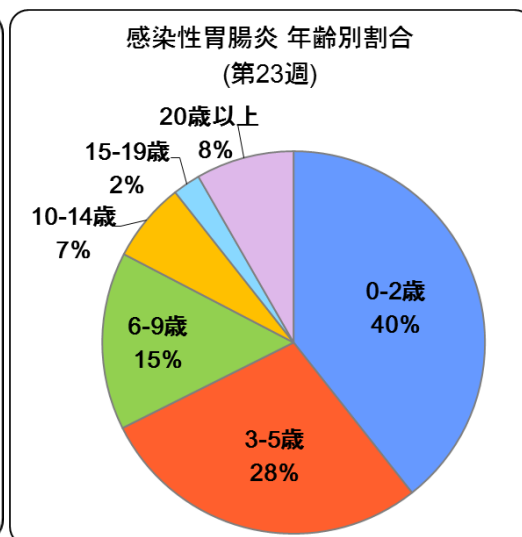
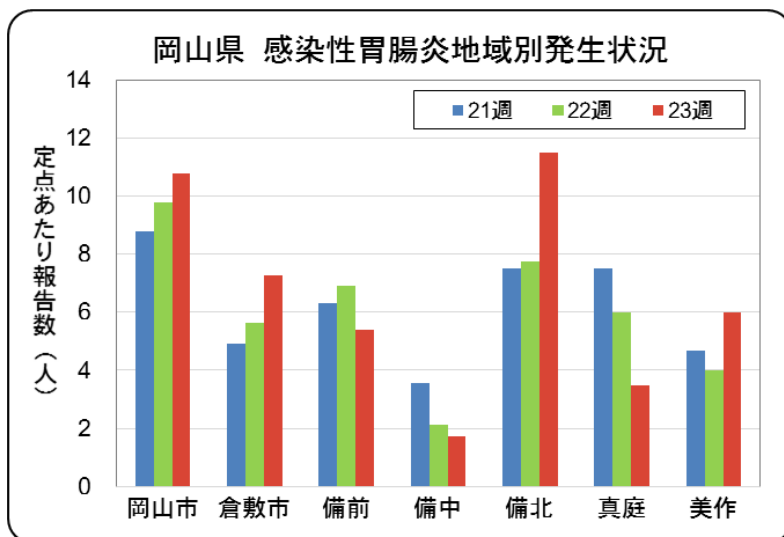
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で386名(定点あたり6.48→7.15人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎が増加します。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、備北地域（11.50 人）、岡山市（10.79 人）、倉敷市（7.27 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 23 週年齢別割合では、0-2 歳 40%、3-5 歳 28%、6-9 歳 15% の順で高くなっています。

◆◆◆ 食中毒予防の 3 原則 ◆◆◆

- 「清潔」（菌をつけない）
 - ・調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
 - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- 「迅速・冷却」（菌を増やさない）
 - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
- 「加熱」（菌をやっつける）
 - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
 - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。
（食肉の生食は避けましょう。）

[食中毒予防の 3 原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の 6 つのポイント（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2017年 23週(定点把握)

(2017/06/05～2017/06/11)

2017年6月15日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	24	0.29	2	0.09	16	1.00	4	0.27	—	—	—	—	—	—	2	0.20
RSウイルス感染症	3	0.06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.50
咽頭結膜熱	37	0.69	10	0.71	—	—	11	1.10	1	0.14	2	0.50	2	1.00	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	1.37	32	2.29	20	1.82	8	0.80	3	0.43	4	1.00	—	—	7	1.17
感染性胃腸炎	386	7.15	151	10.79	80	7.27	54	5.40	12	1.71	46	11.50	7	3.50	36	6.00
水痘	21	0.39	5	0.36	4	0.36	1	0.10	5	0.71	1	0.25	2	1.00	3	0.50
手足口病	81	1.50	34	2.43	17	1.55	9	0.90	7	1.00	6	1.50	7	3.50	1	0.17
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	21	0.39	10	0.71	3	0.27	1	0.10	—	—	2	0.50	—	—	5	0.83
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	39	0.72	10	0.71	17	1.55	6	0.60	3	0.43	3	0.75	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	24	0.44	11	0.79	7	0.64	4	0.40	—	—	—	—	1	0.50	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	16	1.33	6	1.20	8	2.00	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	1.00	4	4.00	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 23週(発生レベル設定疾患)

(2017/06/05～2017/06/11)

2017年6月15日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	24	0.29	2	0.09	16	1.00	4	0.27	—	—	—	—	—	—	2	0.20
咽頭結膜熱	37	0.69	10	0.71	—	—	11	1.10	1	0.14	2	0.50	2	1.00	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	1.37	32	2.29	20	1.82	8	0.80	3	0.43	4	1.00	—	—	7	1.17
感染性胃腸炎	386	7.15	151	10.79	80	7.27	54	5.40	12	1.71	46	11.50	7	3.50	36	6.00
水痘	21	0.39	5	0.36	4	0.36	1	0.10	5	0.71	1	0.25	2	1.00	3	0.50
手足口病	81	1.50	34	2.43	17	1.55	9	0.90	7	1.00	6	1.50	7	3.50	1	0.17
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	39	0.72	10	0.71	17	1.55	6	0.60	3	0.43	3	0.75	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	24	0.44	11	0.79	7	0.64	4	0.40	—	—	—	—	1	0.50	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	16	1.33	6	1.20	8	2.00	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第23週 2017/06/05～2017/06/11)

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	24	1	-	4	-	1	-	-	3	-	1	-	-	1	4	5	3	1	-	-

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	37	-	4	14	2	6	3	3	2	1	2	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	-	-	3	3	7	13	13	7	5	8	3	7	-
感染性胃腸炎	386	4	21	85	42	43	34	32	24	12	13	9	26	9
水痘	21	-	1	2	1	1	1	3	6	-	3	2	-	-
手足口病	81	2	3	34	15	8	7	4	1	4	-	-	2	-
伝染性紅斑	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	1	10	7	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	39	1	6	10	5	4	2	2	3	-	3	-	3	-
流行性耳下腺炎	24	-	-	1	2	-	7	5	2	3	2	1	1	-

疾病名	合計 -6ヶ月-12ヶ月		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	16	1	-	-	-	1	-	-	1	-	1	1	-	2	-	3	1	1	4

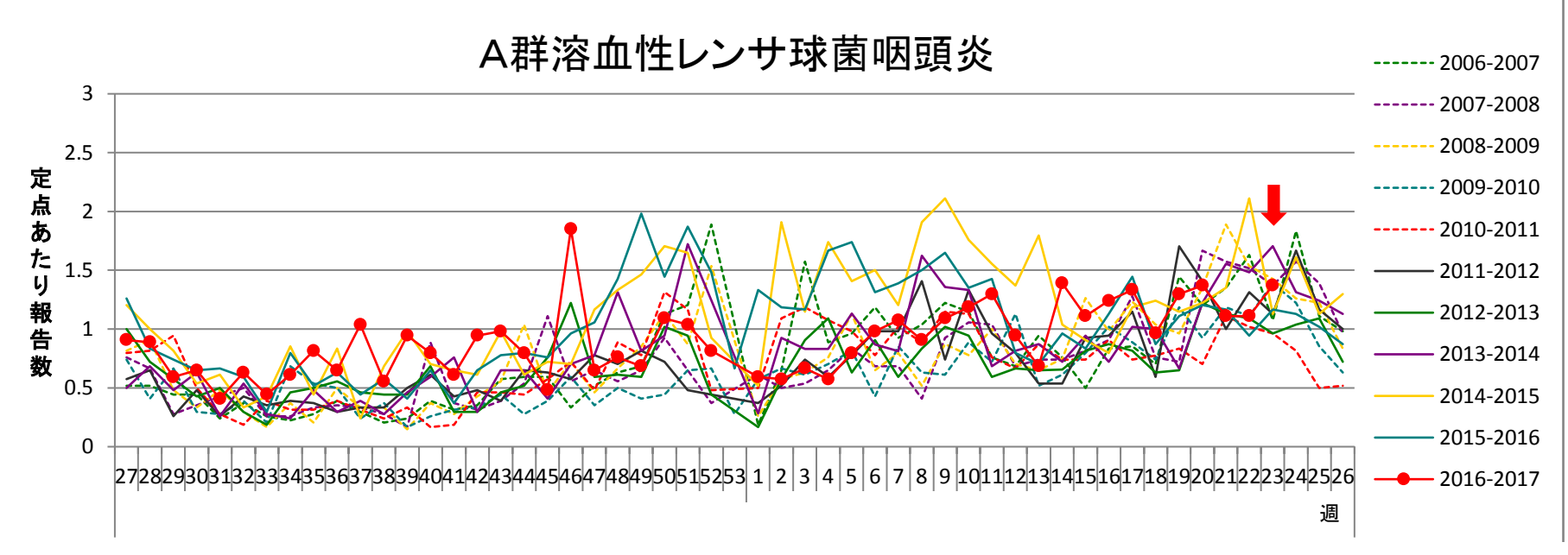
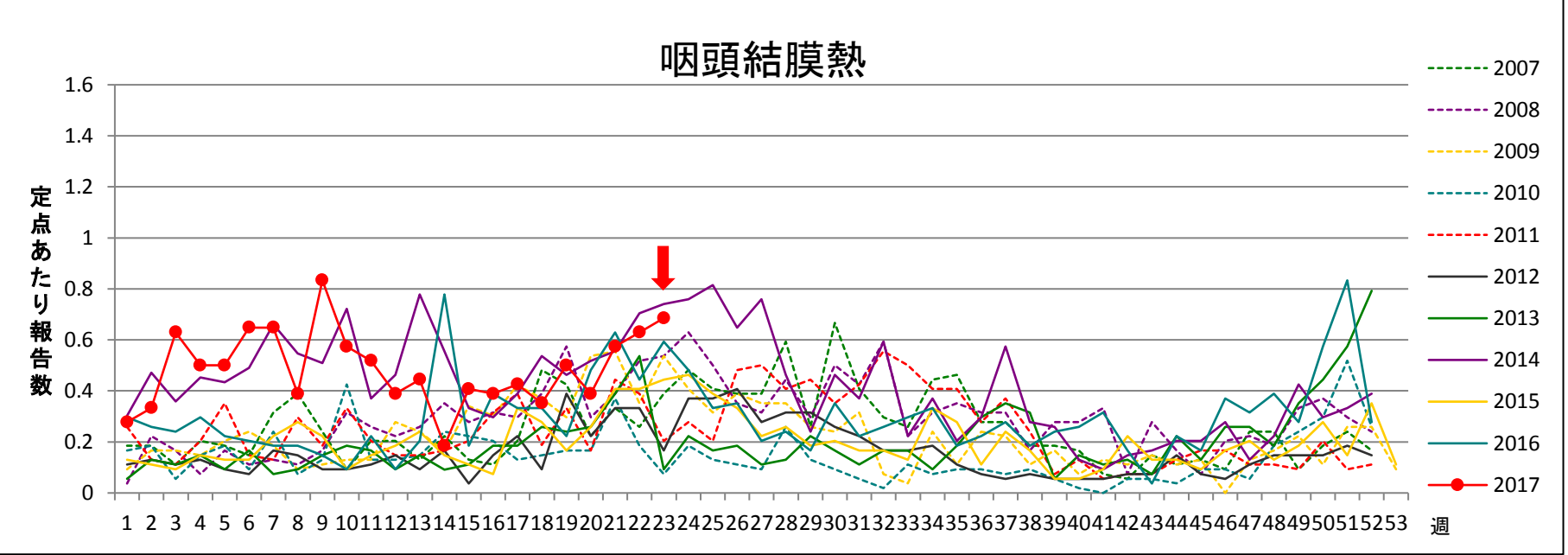
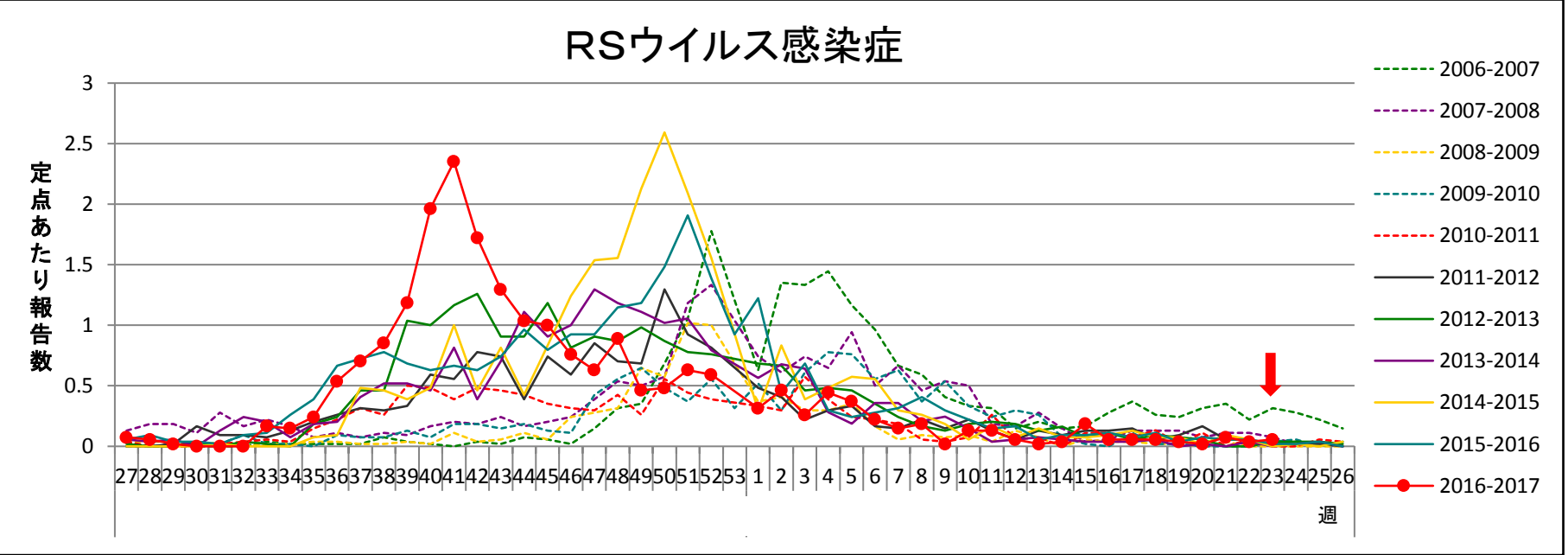
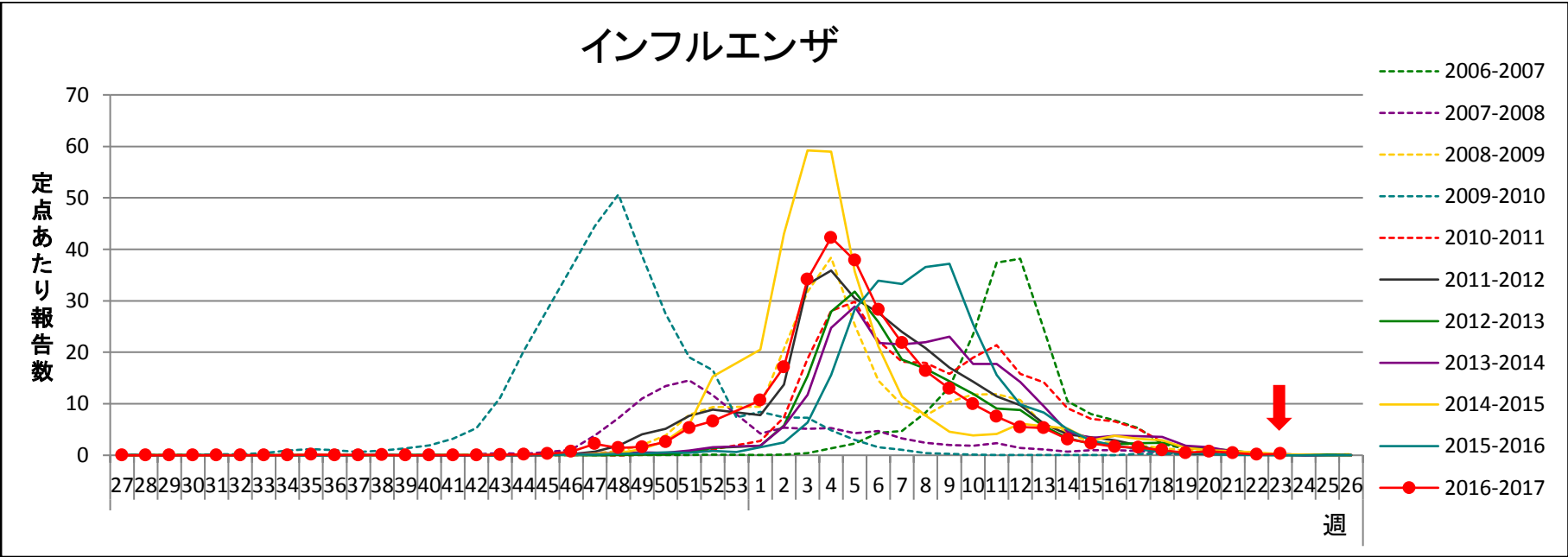
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

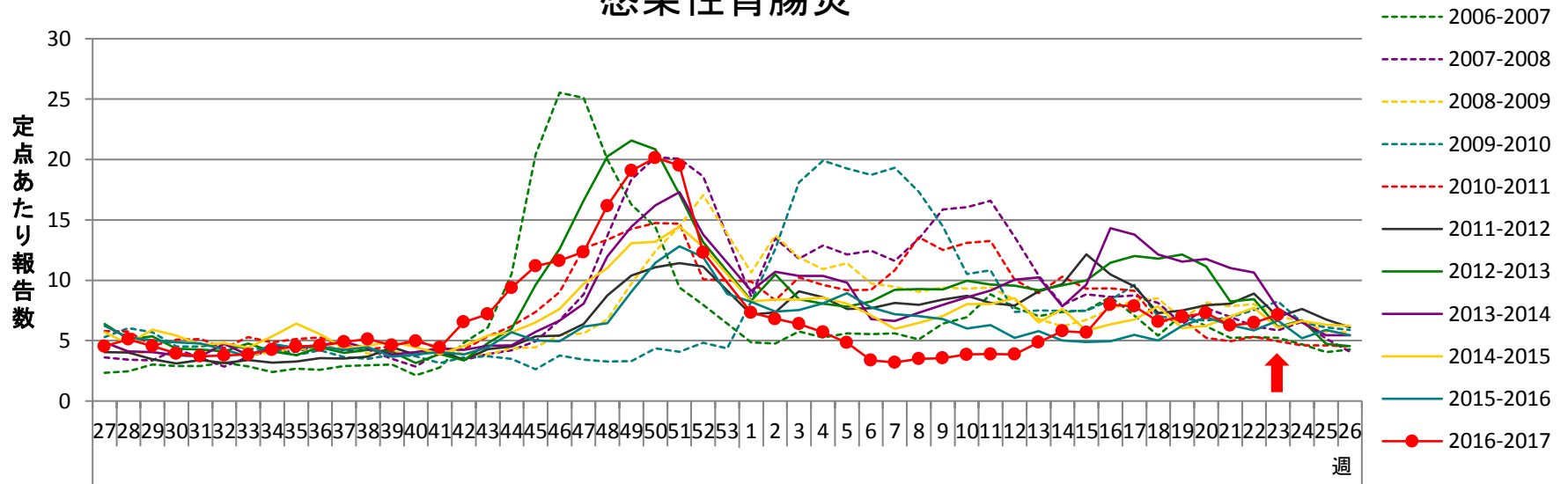
全数把握 感染症患者発生状況

2017 年 23 週

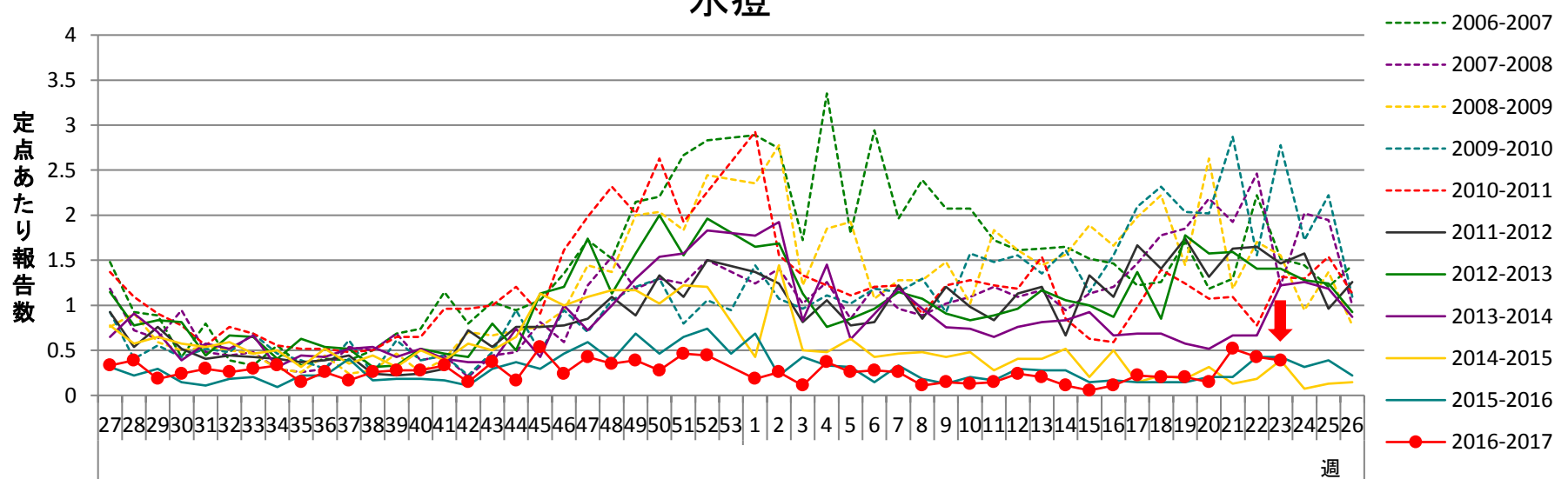
分類	疾病名	2017		2016	疾病名	2017			2016	疾病名	2017		2016
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週		累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－		痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－		マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－			－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	2	148	311		ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－		鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－			－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	1	－		腸管出血性大腸菌感染症	－	3	65
	腸チフス	1	1	－	パラチフス	－	－	－			－	－	－
四類	E型肝炎	－	1	2	ウエストナイル熱	－	－	－		A型肝炎	－	1	3
	エキノコックス症	－	－	－	黄熱	－	－	－		オウム病	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－		キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－		コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	ジカウイルス感染症	－	－	－		重症熱性血小板減少症候群	－	－	1
	腎症候性出血熱	－	－	－	西部ウマ脳炎	－	－	－		ダニ媒介脳炎	－	－	－
	炭疽	－	－	－	チクングニア熱	－	－	－		つつが虫病	－	－	2
	デング熱	－	－	1	東部ウマ脳炎	－	－	－		鳥インフルエンザ	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	日本脳炎	－	－	1		日本紅斑熱	－	－	4
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	Bウイルス病	－	－	－		鼻疽	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－		ヘンドラウイルス感染症	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	ボツリヌス症	－	－	－		マラリア	－	－	－
	野兔病	－	－	－	ライム病	－	－	－		リッサウイルス感染症	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	類鼻疽	－	－	－		レジオネラ症	－	5	26
	レプトスピラ症	－	－	－	ロッキー山紅斑熱	－	－	－			－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	11	18	ウイルス性肝炎	1	4	4		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	4	28
	急性脳炎	－	3	11	クリプトスポリジウム症	－	－	－		クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	8	後天性免疫不全症候群	－	8	12		ジアルジア症	－	－	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	－	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－		侵襲性肺炎球菌感染症	1	20	32
	水痘(入院例に限る。)	－	1	3	先天性風しん症候群	－	－	－		梅毒	－	43	40
	播種性クリプトコックス症	－	－	2	破傷風	－	－	4		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	3	1	風しん	－	－	－		麻しん	－	－	－
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－			－	－	－



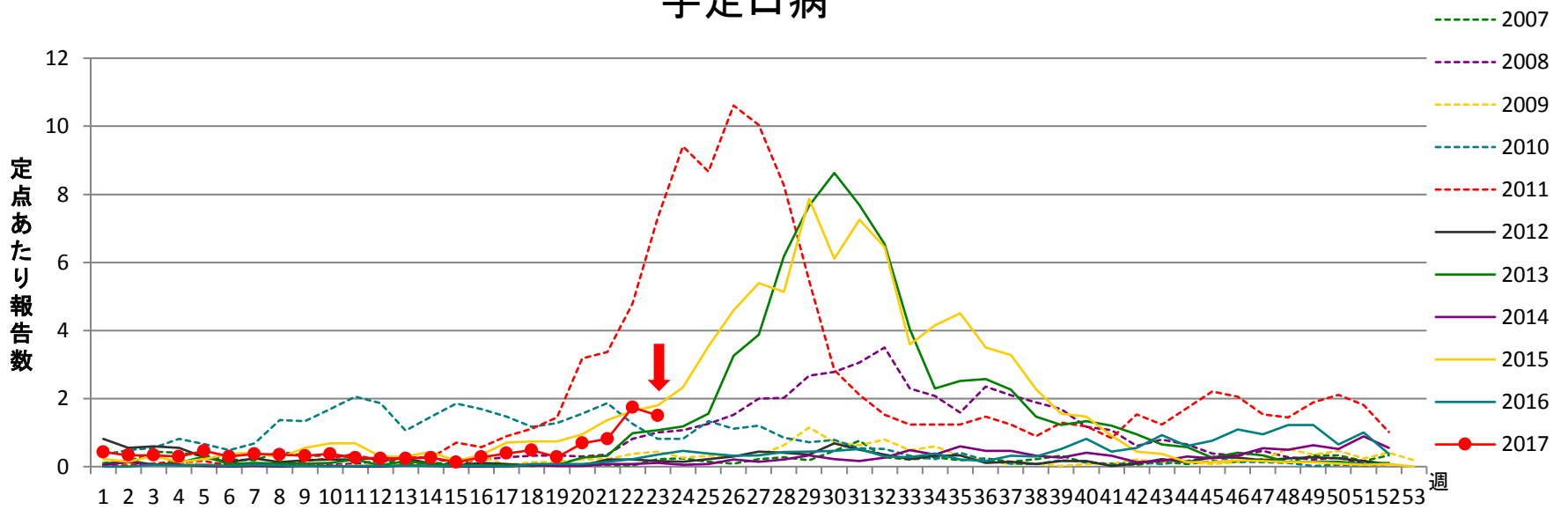
感染性胃腸炎



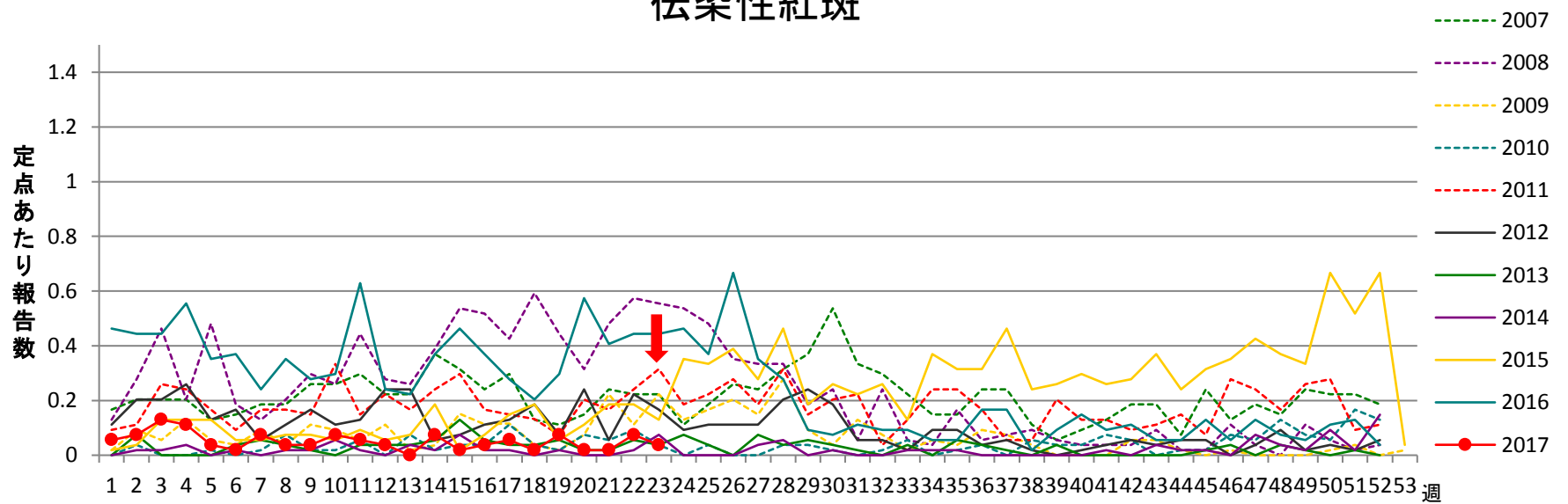
水痘



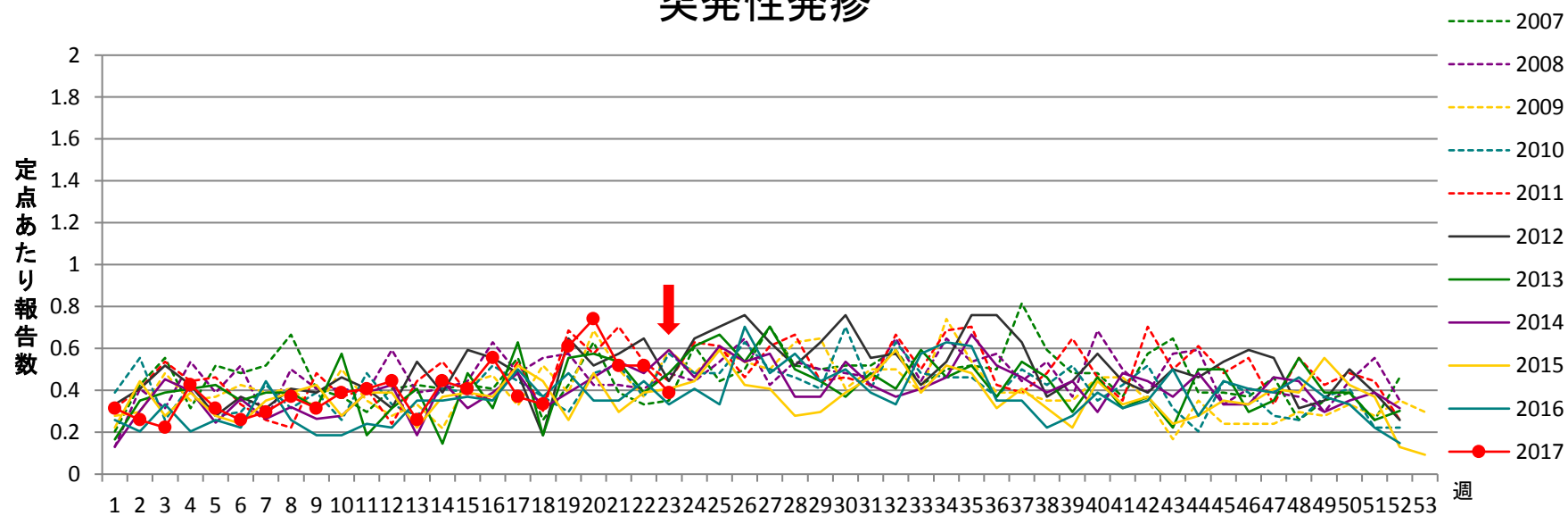
手足口病



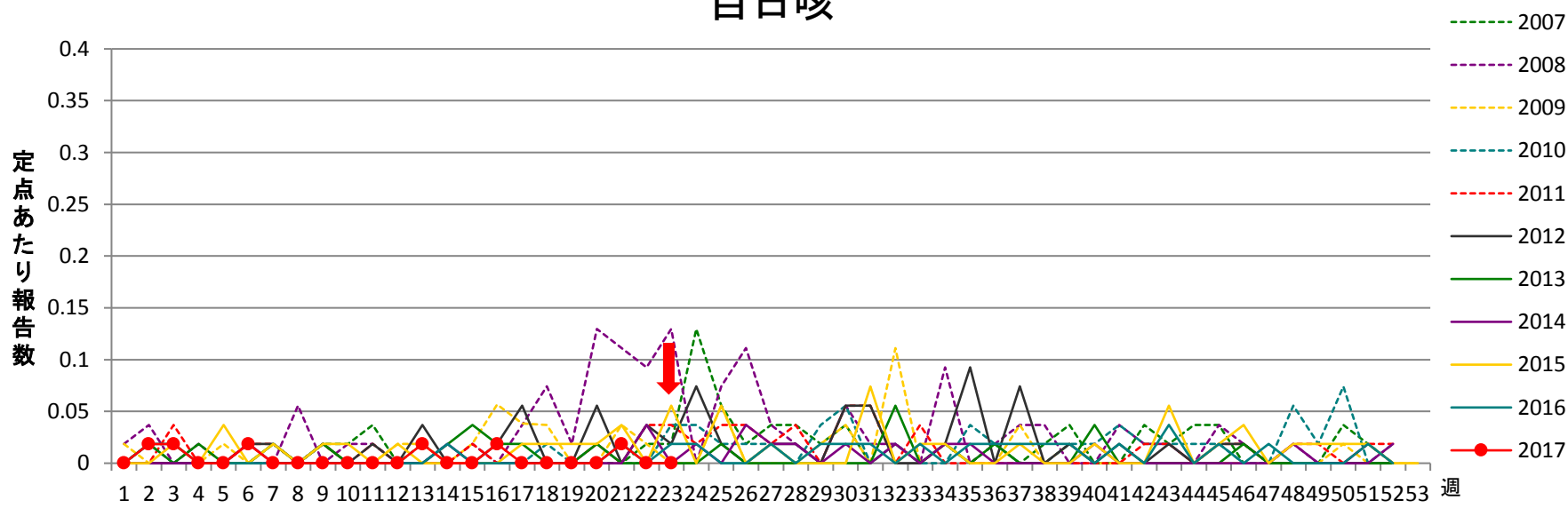
伝染性紅斑



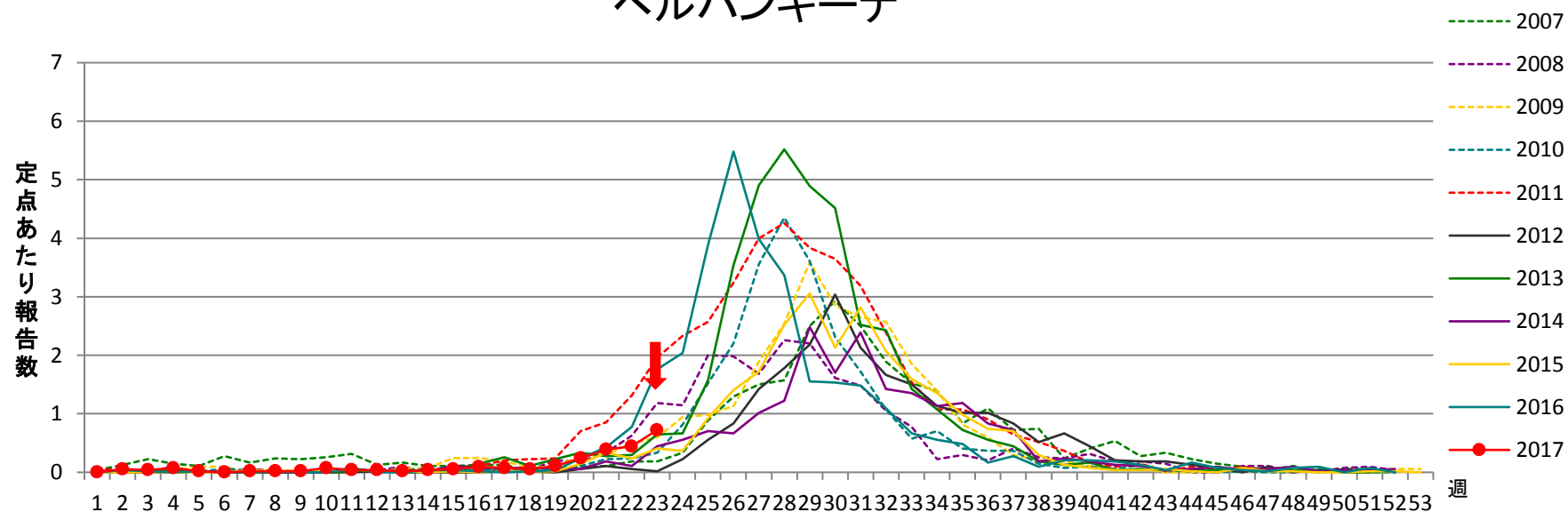
突発性発疹



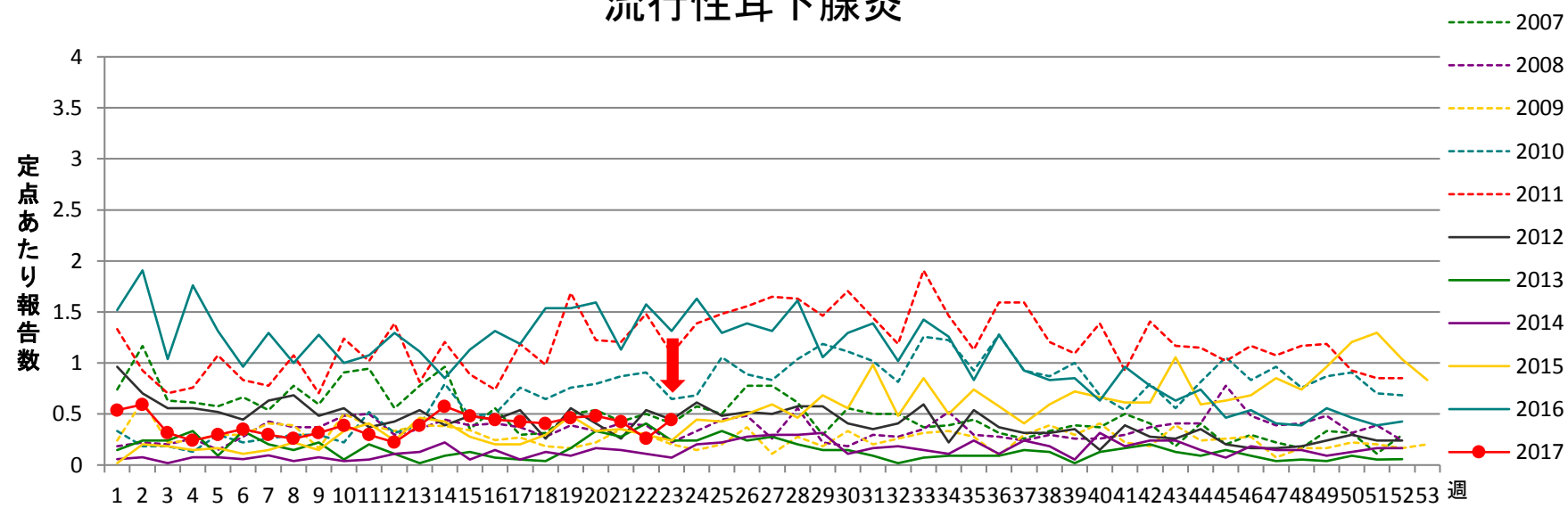
百日咳



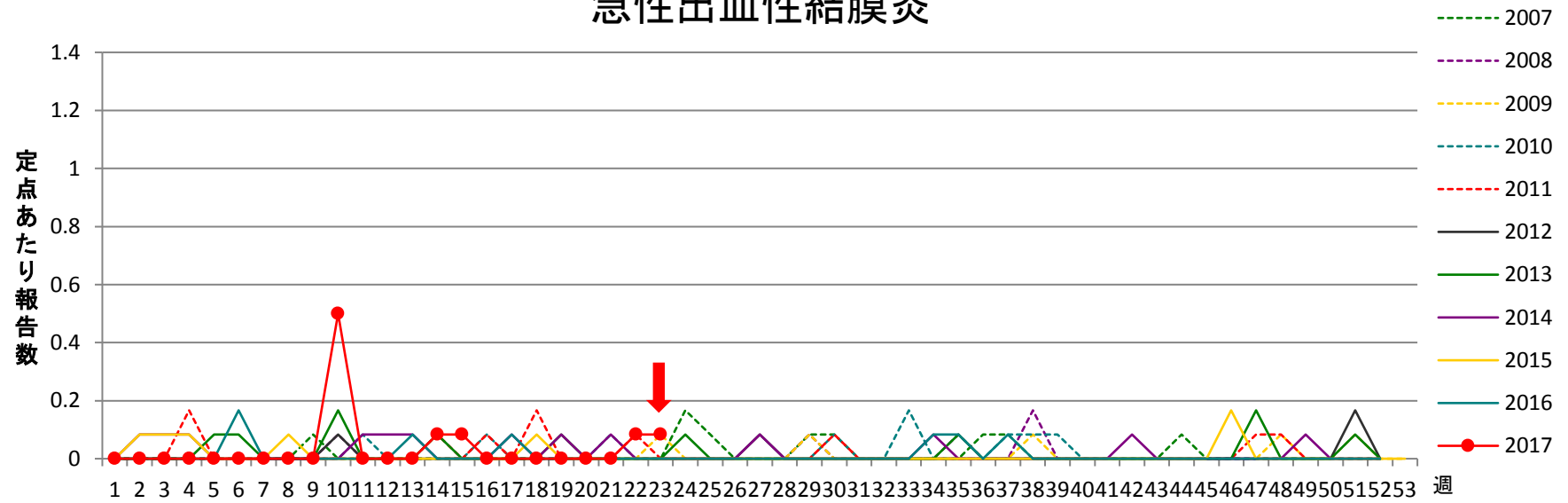
ヘルパンギーナ



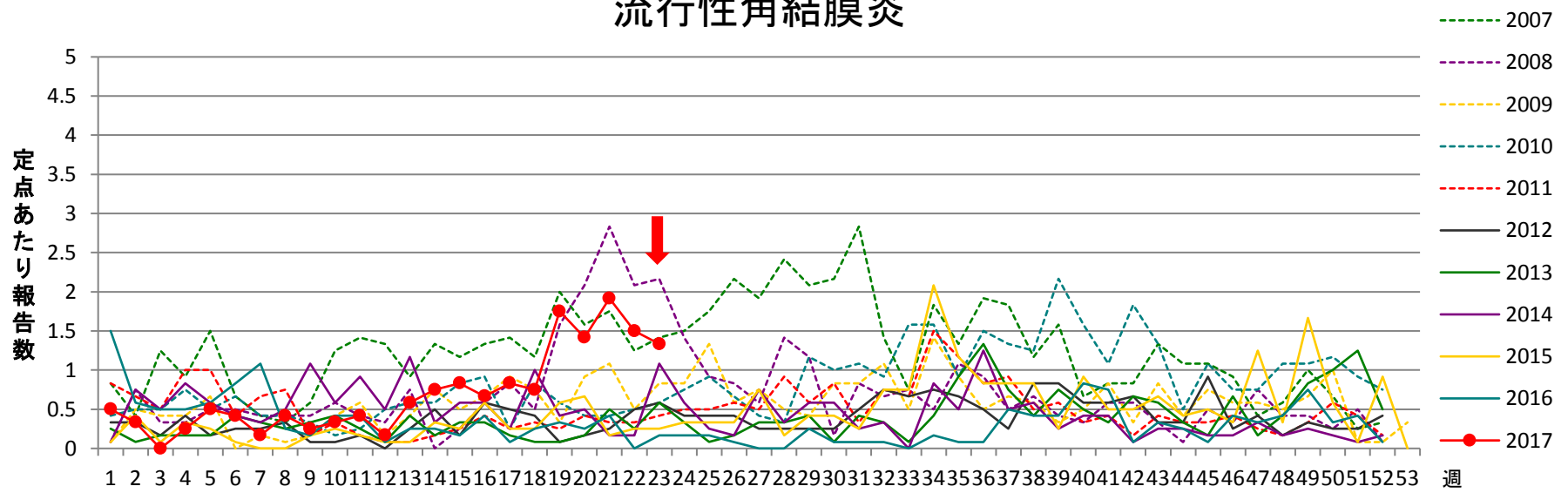
流行性耳下腺炎



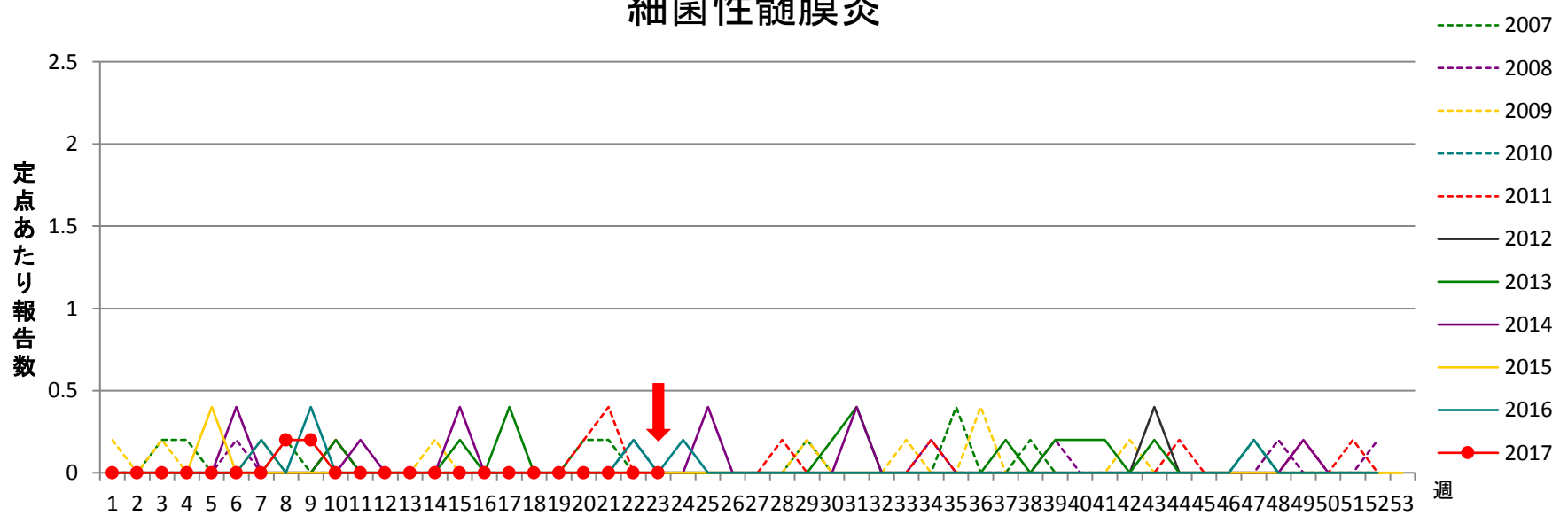
急性出血性結膜炎



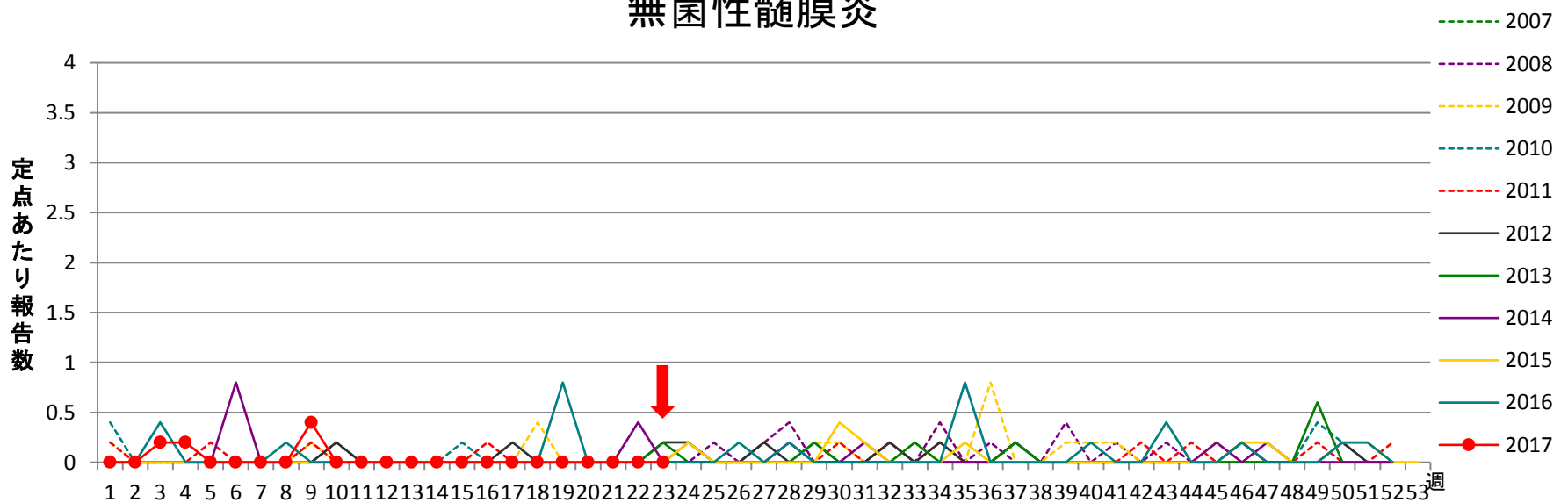
流行性角結膜炎



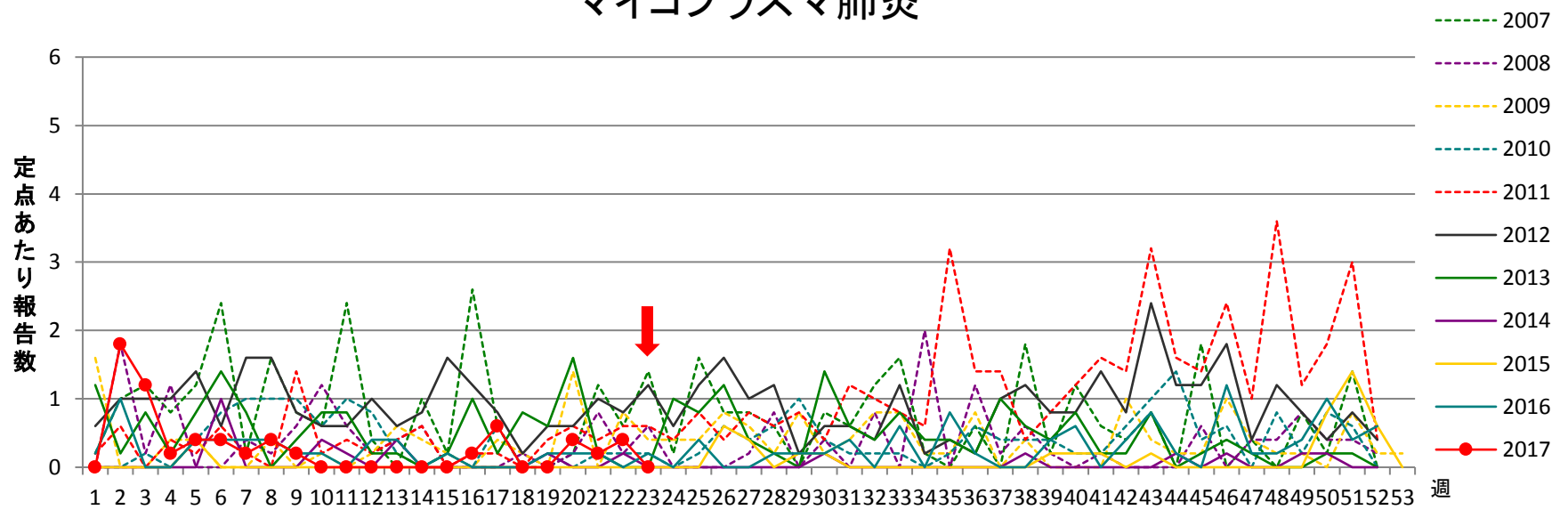
細菌性髄膜炎



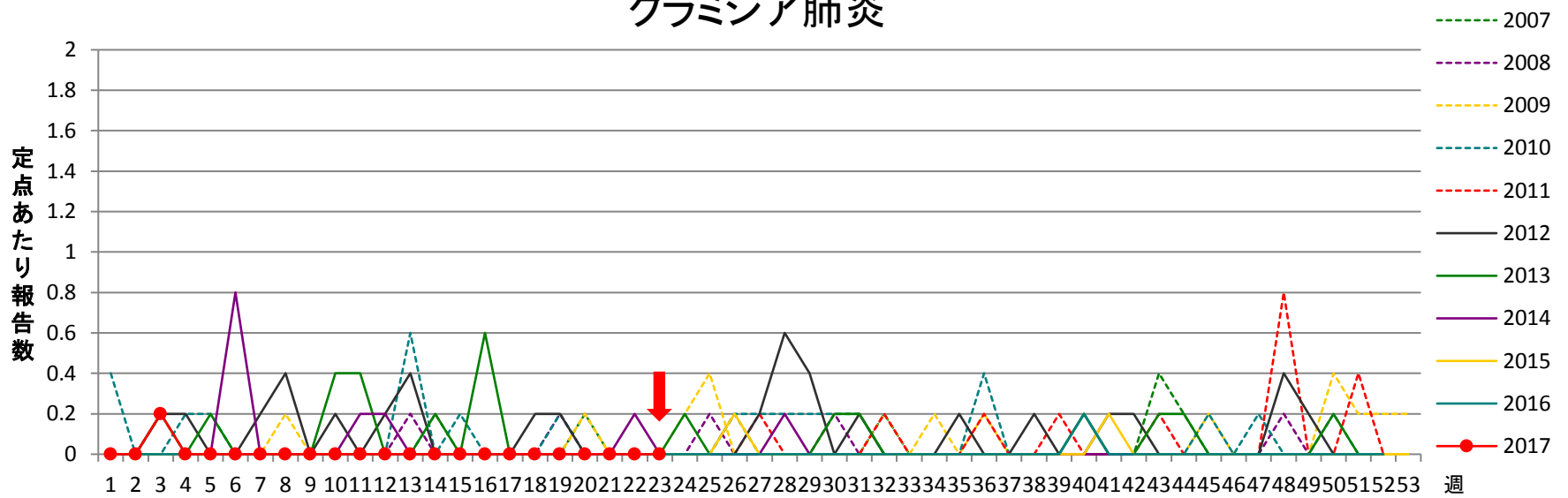
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

